

talk! talk! talk! 俳優、タレント・金子貴俊さん



俳優、タレント 金子貴俊さん

男のシンクロナイズド・スウィミング映画として一大ブームを巻き起こした「ウォーターボーイズ」で、愛らしくも真の強い男の子を演じ話題となった金子貴俊さん。俳優としての才能を開花させ、その後数々の作品で活躍を続けている。絵画や映像、脚本制作など様々なジャンルでも自己表現を続けてきた金子さんは今、昨年出合った“写真”という表現方法に夢中なのだという。金子さんが写真にのめり込んだ理由とは、そして写真はどんな存在なのか？今回はその思いをたっぷりと語っていただいた。

プロフィール

かねこ たかし。1978年、東京都生まれ。18歳の頃にスカウトされ、翌1997年に俳優デビューを果たす。2000年「死者の学園祭」（篠原哲雄監督）で映画デビュー。2001年、映画「ウォーターボーイズ」（矢口史靖監督）の早乙女聖役に注目を浴びる。その後、映画、ドラマ、バラエティなど幅広く活躍を続ける。
主な出演に映画「あずみ」（北村龍平監督）、ドラマ「すいか」（日本テレビ系）「はるか17」（テレビ朝日系）、バラエティ「踊る！さんま御殿」（日本テレビ系）「世界ウルルン滞在記」（TBS系）など。また、著書にフォトメッセージブック「僕の眼〜こころが凹んだ日には〜」（メディアファクトリー）、自伝的エッセイ「僕が笑っている理由」（集英社）がある。
現在はNHKの「中国語会話」にレギュラー出演中で、今後は全国学園祭にも出演予定（11/5奈良「白鳳女子短期大学」、11/6京都「華頂短期大学」、1/11東京「実践女子大学」、11/18長崎「長崎大学」、11/19大阪「大谷女子大学」）。2006年2/15～2/20には、名古屋三越本店で「金子貴俊個展」を開催。2/19には握手会も行われる。

ファインダーを覗くたびに感動し 撮る瞬間、瞬間にときめきがある

写真を撮るようになったきっかけは何ですか？

去年のお正月にモロッコに行ったんです。そのときになんとなく景色を撮ってみたら、自分でもびっくりするくらいいい写真が撮れたんです。「自分でもこんなにきれいな写真が撮れるんだ」って思って感動してしまって、それが写真を撮り始めたきっかけになったんです。

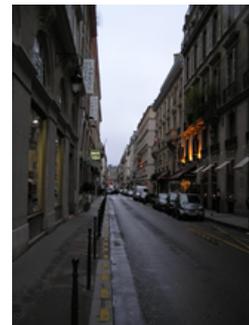
それまでに写真を撮る機会はなかったんですか？

僕のウェブサイトの写真載せるためにカメラを持ってはいたんです。でも、「仕事でこんなことをしました、こういうところに行きました、イエイ！」みたいな感じで使っていたので、景色を撮ったりはしませんでした。モロッコに行くときも、そんな感覚でカメラを持って行ったんです。ところが景色を撮ってみたら、自分を撮るよりその方が面白くなってしまったんです。

それほど感動する写真が撮れたんですね。

あくまでも僕の中では、ですけどね（笑）。モロッコは砂漠なので、空気が乾いている。空の色も日本とはまったく違いますし、全体の空気感が映画の「バグダッド・カフェ」みたいにきれいで「これはおもしろいぞ」って思ってしまいました。そういうモロッコの素晴らしい景色に感動して、それを写真に収められたということがとても大きかったです。

それから写真を撮ってみようと思った。



「フランス～モロッコ旅行にて、その1」写真に目覚めたモロッコ旅行と同時期に行ったフランスで撮られた

ええ、景色を撮ってみようと思って。でも、そう思っていたら帰国後すぐ、カメラの入った鞆を盗まれてしまったんですよ！カメラが手元に無くなったと思ったら、余計に「大事なものだっのに、撮りたかったのに」っていう気持ちが強くなって、どんどん思いが募りました（笑）。そこから一気にたくさんの写真を撮るようになって、どんどんハマって行きました。

ハマっていった一番の理由はどこなところだったのでしょうか？

普段生きている中で、心を動かされるような気持ちになることってそんなになんかと思うんです。でも、写真を撮り始めてから、ファインダーを覗いているのを見ると、かわいいなと思うたり微笑ましいなと思うたり、いろいろ感じる事ができるんです。

それから、カメラのおかげでいろいろなものを見ようとするようになりました。普段はただ何も変わらない景色でも、撮ろうと意識することで小さな変化や発見に気づくんです。撮る瞬間、撮る瞬間、ときめくんです。都会にもこんな一面があったんだなって感じたり、うれしい気持ちになったり、それがおもしろくてハマっていきました。



「フランス～モロッコ旅行にて、その2」

暗いものから明るさを、寂しさから美しさをモノが持つ二面性を写したい

被写体は景色が多いのですか？

ええ、景色、自然のものばかりですね。あとはゴミとか.....

ゴミですか？

たとえば、汚いイメージのものをきれいに撮りたいと思うんです。僕はモノには何でも二面性があると思っていて、明るい部分と暗い部分だったり、表と裏だったり。人間もそういう二面性を持っているし、花や緑や海などの自然もそうだと思うんです。ゴミだったら、ただ汚いものではなくて、たとえば見方を変えたとすこざり切った感があるというか、生き抜いた感じがするんですよ。そこに美しさを感じて、そういう美しさを写真に残せたらと思うんです。枯葉にも同じように感じます。寂しくはかなげないイメージだけでなく、最後まで生きた達成感があったり、そこに人間の一生を重ねて見てしまったりもします。僕の場合は特に、暗い中に明るさを見たり、寂しい中に美しさを感じたりするようなものが好きです。暗いトンネルの中にひとすじの光りが見

えたり、夕焼けの中に希望を感じたり。

最初からそういった写真を撮りたいと思っていたのですか？

いえ、最初は普通に景色を撮っていたんですが、ある日夕焼けをバックにクモを撮ったことがあったんです。僕は虫が大っ嫌いで、特にクモはものすごく気持ち悪いものだって思っていたんですけど。でもその写真を撮ったときに、クモはこんなにも美しいものなんだなって思えて、そこからモノの二面性というようなことを意識するようになりました。

今はどれくらいのペースで撮影を楽しんでいるのですか？



そんなに多くはないかもしれませんが。ただ、カメラはいつも車に置いてあるので、撮りたいって思ったら持ち出して撮るという感じですね。写真を撮りに行くって思っただけで、月に1回行ければいいかなという感じです。最近では南国の花を見たいなって、夢の島にある熱帯植物園に行きましたよ。

人物を撮ったりはしないのですか？

今のところは人を撮るつもりはないですね。普段僕自身が撮られることが多いので、撮るのは人以外がいいと思うってしまうというのかもしれない。ただ、僕は今、自分探しのために写真を撮っているんです。人を撮るということは、自分だけでなく相手を知る作業も入ってくるんじゃないかなって思うので、今はそこまでする余裕が持てないですね。自分のことだけで精一杯という感じです。



「熱帯植物園にて」

自分探しのために撮る写真!? 「写真は僕の心の中を写しているんです」

自分探しのために写真を撮っているのですか？

はい。定期的に撮っていれば、常に同じものを写真に撮るわけではなくて、だんだんと撮るものや視点が変わっていきますよね。そこから自分の成長が読み取れたり、今悩んでいることやぶつかっている壁に気づいたりすることがあるんです。

写真を撮ったらまず、撮った写真を見直しながら「何でこの写真を撮ったんだろう」って考えるんです。考えていくうちに「ああ、自分は今、自信を無くしているんだな」とか、暗い洞窟の先に光がさしているように見えたなら「心に弱い自分がいて、そこから抜けたがっているんだな」とか、そうやって自分の精神状態を写真で分析するんです。

撮影しているときには、その精神状態に気づくことはできないのですか？

撮っているときは無意識なんです。歩いていて、ふと「これ撮ってみようかな」と思う。あとは気づいたら夢中でずっと同じものを撮り続ける。ただ、何でそれに惹かれたのか……きれいだなって思って撮ったというくらいの意識はありますが、よくよく考えるとなぜそこまで追求して撮る必要があったんだろうって。そういうことは後にならないとわからないんです。さらに写真で感じたことを詩にして書き添えたりもしています。だから「写真は僕の心の中を写している」という方が近いかもしれません。

先ほど、暗い中に見える明るさや、寂しい中にある美しさを撮りたいとおっしゃっていましたが、それは金子さん自身の現在の心境が現れているのでしょうか？

ああ、そうですね。僕がこの仕事を始めた最初の頃は、なかなか食べて行くことができてとでも大変だったんです。まさにひとすじの光を追うみたいに夢に向かって必死にやってきたので、その時の気持ちが今の自分に強く影響を与えているんだと思います。だから、写真にもその影響がどうしても現れてしまう。

同時に写真を見てくださる方に向けて、夢をあきらめないでという思いを込めて撮っていますし、夢を追い掛けている人に共感してもらえたらなとも思うんです。

自分探しと同時に、写真で何かを伝えたいとも思う？

もちろん、写真を撮る一番の目的は自分探しのためなんですけど、もし僕の写真で共感してくれたり勇気づけられる人がいたらうれしいなと思うんです。

そういえば、ちょっと前に写真と詩をまとめた本を作ったんです。これを読んでくれた人が元気になってくれたらいいなという気持ちで作ったんですが、実際に出来上がって読んでみたら、自分に向けての本だった。辛いとき、悲しいとき、嬉しいときはもちろん、自分に喝を入れるような詩もあって、自分で自分に説教してる本じゃないか！って（笑）。

写真や詩を通して、かなり赤裸々にご自身の思いを表現されているんですね。

そうかもしれないですね、結構深いところまで出してる（笑）。でも、生きていく中で他人にしゃべれないようなことはたくさんあります。自分がやってきたことはすべて、好きな人たちはは知ってもらいたいと思うタイプなので、ファンの方にもなるべく飾らず、いつも正直でありたいなと思っています。

写真などの自己表現を通して 見る人とコミュニケーションを取っていきたい

金子さんはウェブサイトをご自身で制作されたそうですね。

はい。ウェブサイトに写真を載せたり、自分のことをいろいろ書いたりしています。

ウェブサイトは僕が17、18歳くらいから作っているんです。その頃はまだ仕事も無いのに、僕のことを何かで知ってウェブサイトを通して応援してくれていたファンがいたんです。そういうファンの人たちが僕を支えてくれたので、ウェブサイトは今の自分の基本の部分というか、とても大切な場なんです。たとえ何もなくなってもここはずっと続いていくし続けていけるっていう安心感があるんです。実家みたいなものですね（笑）。

写真についてファンの方から何か反応はありますか？

はい。感想をメールでいただいたり、ノートに写真1枚1枚の感想を、1ページずつ書いて送ってくれたり。めちゃくちゃうれしいですね。

最近では、ファンの方の中にもカメラにハマりましたって人が多いですよ。僕に写真を送ってきてくれたりします。「今日はこんな写真を撮りました」って。それがみなさん結構いい写真を撮ってくるんですよ。だから僕も「ヤバイな、これは負けれないぞ」って思う。勇気づけられましたって言うのもあるけど、ファンなのに本気で勝負してくるときもある（笑）。



「伊豆にて、その1」



「伊豆にて、その2」



「エジプトにて」

(笑) それは面白いですね。

面白いですよ。普通に友達みたいで。なんて言うか、ファンの人に対しては、支えたいし支えられたっていう気持ちがあるんです。写真を見て勇気づけられたらいいし、勇気づけられたいなとも思うんです。

写真に限らず詩を書いたり、絵を描いたり、自分の思いを表現していく作業というのはずっとやっていくと思うんです。そしてそれを発表する限り、見る人と少しでもコミュニケーションが取れたらいいですね。ディスカッションというか、「僕はこんな感じですよ。ファンみなさんはどうですか？」って。常にそういうことを続けていきたいです。

自分の思いをいろいろな形で表現し続けていきたいと。

はい、僕のやっていることはすべて自己表現ですから。よく、「役者とバラエティではどちらが好きですか？」って聞かれるんですが、僕にとってはすべて同じ表現の場なんです。そして表現することの先にあるのは、それで誰かを喜ばせること。それが僕の目標なので、自己表現ができることであれば、これから先何でもチャレンジしていきたいと思っています。

写真を撮るときは素の自分に戻れる「その時間が今、一番楽しいです」



写真を撮り続けていて「上手くなったな」と感じることはありますか？

いやあ、それはまったく感じませんね(笑)。ちゃんと勉強したこともないので、何がいい写真なのかもわからないし。かといって、写真を上手く撮れるようにはなりたくないんです。器用に撮れるようになったらつまらないというか、“こなしちゃう感”が出るのが嫌だなと思うんです。いつも一生懸命、体当たりで撮ることが、僕にとっては写真への思い入れの強さになるのかなと思っています。

では、写真を撮るようになって、金子さん自身が変わったなと思うところはありますか？

うーん.....ちょっとだけですが、周りの人に優しい気持ちで接するようになったかもしれないですね。これまでの自分は、成功することだけに執着していたと思うんです。チャンスを掴んでやるうって常にアンテナを張って躍起になって、そのためなら人にどう思われてもいい、とにかく前に前にという感じでした。そういう生き方をしていると、その分自分への跳ね返りも大きかったし、辛く寂しい思いもしました。でも今は上に登ることばかりを考えていた自分はいなくなりました。心と心でつき合っていくことが大切なんだなってわかりました。

野心に燃えている時期だったんですね。

そうですね。とにかく仕事、仕事という感じだったので。でも、写真を撮り始めてからは自分の本質がわかってきたので、周りだけでなく普通の男の子としての自分も大切にするようになりました。

仕事だけでなく、自分のために写真を撮ったり見たりする余裕が生まれたんですね。

そう、余裕ですね。ブレイクタイム。写真を撮っているときは本当に素の自分に戻っていると思います。社会に出ているからには気を使ったり張ったり、どこか自分のテンションを上げていかなければいけないですから、そういった状態から解き放たれていられる素の時間というのが、今一番楽しいです。撮りながら、気づいたら土の上に寝そべっていたりして(笑)、本当に周りをまったく気にしていないですね。

今後撮ってみたいものはありますか？

これからも自分の心情を写していきたいというのと、あとは世界を写したいですね。違う国で写真を撮りたい。日本で撮って気づくこともありますが、僕が世界に行ったときに何を撮るのか自分自身とても興味があります。モロッコに行って写真が好きになったってことがあっただけに、まだまだ見ていない土地でどんな影響を受けるのか知りたいですね。

では最後に、金子さんにとってのカメラ、写真とはなんでしょう？

もうひとつの鏡、みたいなものでしょうか。鏡を見れば自分の容姿はわかりますが、心を写すものって無いですよね。だから、写真は心を写す鏡だと思います。

うーん、なるほど。

いや、何だか今かなりかっこいいこと言ってしまったね(笑)。知り合いが見たら、お前何言ってるんだよって言われちゃいそう。でも多分、みなさんも撮り始めたらそうなると思います。「自分はこれが好きだったんだ、自分ってこんな人だったのね」って。写真で自分のことがわかるようになると思いますよ。

[> コンテンツトップへ戻る](#)

※掲載している情報は、コンテンツ公開当時のものです。

株式会社 **ニコン** 映像事業部

株式会社 **ニコン** イメージング ジャパン

© 2019 Nikon Corporation / Nikon Imaging Japan Inc.